



「キャンプ 瑞慶覧③」

いごに

今回は、地域の
々からの聞き取り
調査などで教えて
もらったキャンプ
瑞慶覧内の字喜友
名・字新城を中心と
した戦前の風景な
どを紹介します。

水田・畑

国道五八号線東側一帯は、戦前まで喜友
名七泉や新城のシンバルガーなどに代表
される多くの湧泉に育まれた水田が広が
り、収穫時期には黄金色の稲穂が風に揺れ
て大変美しい風景だったそうです。湧泉付
近は傾斜する地形を利用した棚田(段々状
の田)で、田植えの前に、稲の種をまいて苗
を育てる苗代田などとして利用されてい
たそうです。現在米軍の住宅が建ち並ぶ平
坦地は、畑として利用されていました。

茅毛(カヤモ)

字喜友名山川原・字新城下原一帯は、字
の組単位で管理する茅毛として茅葺屋根
の材料に使用される真茅が一面に広がる
宜野湾でも有数な茅の産地だったそうで
す。字で余った茅は売っていたので、他字
などからは「ヤンバルガナシー、チュン
ナーガナシーヌアクトゥ雨ニソソリラン」
(山原と喜友名の茅があったので私たちは
雨に濡れないですんだ)と感謝されたそう

イシジャー

字普天間・字新城の境目付近に位置す
る谷間はイシジャーと呼ばれ、普段は下
流から水が流れ、上流は水が無い谷です
が、大雨の際には上流からも水が流れる
そうです。周辺にはシークワサーヤク
スノキ、松、竹などがたくさん生えてい
て、子どもたちは学校帰りにシークワ
サーを食べたり、竹で釣竿を作っていた
そうです。



戦前の字喜友名・字新城一帯を海側より見たイメージスケッチ

問合せ・・・文化課 ☎89314430

茶ぐわーゆんたく

馬勝負

新しい年が始まりました。
今回は今年の干支である馬にちなんで、
馬勝負を紹介します。

馬勝負は戦前の宜野湾市内の各字で農
林業全般にわたって競い合う原山勝負の
際、宜野湾馬場で行われていました。

馬勝負は二頭の対抗レースで、歩調を整
えるために二、三回馬場をめぐり、歩調が
揃ったら審判が「ハイ」や「デーサイ」「ハ
イサイ」と号令を発し、スタートします。

競争はアシクマスンといって早足足を
交互に出して、一本の足は必ず地面につけ
るで走るという方法で勝負をしていまし
た。現在の競馬のように足の早さを競うの
ではなく、足並みの美しさを競い合ってい
ました。それを人々は馬場の松並木の下に
集り、見物しました。近くには伊祖(現浦添
市伊祖)の天ぶら売りもやってきて賑わい
を見せたそうです。

県下の名馬が集まって競争する馬揃い
は一月十七日、七月十七日、八月十一日
の年三回行われていました。

馬勝負の他に字宜野湾の綱引きなどが
行われ、村民に親しまれていた宜野湾馬場
でしたが、その後沖縄戦の最中に、普天間

飛行場の建設により姿を消し、馬勝負も
見られなくなりました。

※宜野湾馬場→宜野湾並松の西側にあ
り、主に競場が行われる場所でした。長
さ約三六〇メートル、幅三六メートル位
の大きさで、中頭地域でも名高い馬場で
した。



馬勝負のイメージイラスト『宜野湾市史』第5巻

「宜野湾市史」への問合せ
文化課 市史編集係(市立博物館内)

☎87019317

